

## 山のトイレはすべての環境にやさしい

上 幸雄さん

「山のトイレ」と言えばこの方。山に限らず、各地、各方面のトイレ問題に取り組み、環境問題をライフワークとビジネスで両立させる縦横無尽な発想の持ち主、上幸男さんにお話を伺いました。 (インタビューと文：張晶子)

◆子ども時代は、どんなお子さんでしたか？

—1945年10月に、疎開先の奈良で生まれ、2才で東京目黒に戻りました。近所の雑木林でターザンごっこや虫取り、木登りするのが大好きなクラスの暴れん坊でした。かけっこも得意でガキ大将でしたね。あまり元気が良すぎるので、4年生くらいの時、教会へ通えと言われ、1年間だけ真面目に通いましたが。少年時代の体験は豊だったと言えます。

◆山との出会いは？

—伯父が山登り好きで、東京登ろう会というところに入っていました。小学校5・6年生のころ数回連れて行ってもらったことがありました。

中学1年の時、次兄に丹沢へ連れて行かれ、蓑毛から表尾根、塔ノ岳まで行って大倉尾根を下りました。秦野の菜の花畑が満開で、山はキレイだと思ったのを覚えています。それから高校時代にかけて、中学時代の友人を誘って、丹沢・奥多摩・奥武蔵・奥秩父などへ出かけ、八ヶ岳の縦走もしました。

高校時代は地理が好きで地理部に所属し、江の島や信濃川上の地形調査などしていました。

◆自然との係わりはその後も続いたのですか？

—早稲田に入って、探検部に入りました。5月の合宿は5月の甲斐駒ヶ岳と仙丈岳で、初めてピッケルを持ちました。山の技術は高くなかったので、川下りに興味を持ち、ナイル河の完全踏破を目指しました。

大学には8年在籍しましたが、アフリカに渡ったのは22才の時です。清水港から漁船に乗ってマダガスカルまで行き、空路ナイロビに入り、ウガンダへ行ったのです。この時はスーダン南部に自前の船で入る許可が下りずに現地の交通手段であった一般船

でスーダン南部の湿地帯を経験しました。

◆どこで環境問題に出遭ったのでしょうか？

一卒業して入った商社の職場はアラスカでした。あちらでは鮭を捕っても、“すじこ”や“いくら”は捨てられてしまうので、加工して、アメリカ向けと日本向けのそれぞれの商品を作っていた訳です。エスキモー相手の仕事で、監督兼通訳でもありました。

そして鮭を追って、ユーコン川、クスクイム川、アメリカ五大湖まで行きました。そこミシガンで重金属等による水質汚染というものを知りました。ここで、日本へ帰って環境問題をやろう！と思いました。

26才で日本に戻り、雑誌社に入り、水俣病など公害問題を扱う雑誌の編集者になりました。

しかし30才過ぎたころもう一度アフリカに行くために退社してしまいました。この時は、カイロ大学の吉村作治さんの支援も得て、日本テレビをスポンサーに、ナイル河の完全河下りを成功させました。30人ほどのチームで約1年のアフリカ行きでした。

そして戻ってまた環境問題のシンクタンクに入り、編集、執筆の仕事を継続したのです。

当時先進的だった沼津市や世田谷区、町田市などのコンサルタントとしてゴミの「分別資源化」を世に出したのは我々です。

◆トイレ問題にはどうやって行き着いたのですか？

一京都で街のゴミの調査を学生を使ってしていた時に、街中にはトイレが無い、ということに気がついたのです。自治体では「ゴミ」と「トイレ」は同じ管轄です。それで話が通じ易かったこともあり、誰もやっていなかった「トイレ問題」活動がスタート、1985年に日本トイレ協会を設立しました。

シンポジウムを開き、トイレコンクールを開催しました。良い例を褒めてそれを広めようという考え方です。これが公衆トイレの改善につながって行きました。

山のトイレに着手したのは15年ほど前からです。「山でウンコをする方法」という本を書いたアメリカの女流登山家を呼び、田部井さんにもお声掛けして富山でシンポジウムを開催しました。田部井さんは会津駒ヶ岳に携帯トイレを持って行ったりのアピールをして下さいました。

山岳トイレシンポジウム第1回目は、北岳大樺沢で大腸菌が出たというニュースをきっかけに甲府で開催されました。そこから日本の山のトイレの改善が始まったのです。

◆この 20 年、日本の山のトイレ環境は変わりましたか。

—地域による差もありますが、順次進んで来たと言えます。八ヶ岳、北岳、富士山も変わって来ました。携帯トイレも利尻がその代表ですが、徹底出来ているところは他には見当たりません。山のトイレ環境はまだ途上にありますが、山のトイレの考え方は災害時や途上国のトイレに応用できるものとして大変有望です。今回の震災でも役立ちました。

◆これからの上さんの環境問題はどのような方向に向かうのでしょうか。

—これから地球規模で水が不足して行くと、水を使わないトイレが必要になり、また、し尿が資源として使われることにもなると思います。平均 200cc の尿をその 30 倍もの水を使って流しています。水を使わない山のトイレの考え方は有用です。宇宙ステーションのトイレにも進出しようと思っています。提案できることはたくさんあります。

◆好きなこと、興味のあることにガッチリ取り組みつつ、ビジネスとしても形あるものを作りあげてらっしゃる楽しいカンキョー派の上さん。地理部同窓会の途中におじゃまさせていただき、ありがとうございました。